2023 年度
梅春ブリスベン研修
報告書

● 授業概要

大学教育再生加速プログラム（AP 事業）であった長期学外学修プログラムを本学独自の継続事業として実施。現地に長期間滞在し、生活をしながら提携校での英語集中講義、その他の講義を受講する。英語力の向上はもちろん、現地校の授業を実際に体験すること、現地学生との交流を通して異文化の中で生きる経験を身に付けること、異なる言語、習慣、宗教、文化を受け入れ、尊重して生活することの重要性を体験し理解することにより、グローバルな対応力を身に付けることを重要な目的とする。

● 到達目標

コミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向を習得し、異なる環境、価値観の中で得られる外国でのコミュニケーション能力又は現地の文化習慣などの知識を身につけ「グローバルな創造力と耐性」の育成を目的とする。

● 研修スケジュール(2024 年 2 月 15 日～3 月 16 日)

日	月	火	水	木	金	土
11 建国記念の日	12 振替休日	13	14	15 成田空港発(20:10)	16 ブリスベン空港着(6:25) 専用車でSTUDENT ONE Elizabeth Streetへ	17 自由行動
18 自由行動	19 General English @ TAFE (9:15～12:30)	20 General English @ TAFE (9:15～12:30)	21 General English @ TAFE (9:15～12:30)	22 General English @ TAFE (9:15～12:30)	23 天皇誕生日 General English @ TAFE (9:15～12:30)	24 自由行動
25 自由行動	26 General English @ TAFE (9:15～12:30)	27 General English @ TAFE (9:15～12:30)	28 General English @ TAFE (9:15～12:30)	29 General English @ TAFE (9:15～12:30)	1 General English @ TAFE (9:15～12:30)	2 自由行動
3 自由行動	4 General English @ TAFE (9:15～12:30)	5 General English @ TAFE (9:15～12:30)	6 General English @ TAFE (9:15～12:30)	7 General English @ TAFE (9:15～12:30)	8 General English @ TAFE (9:15～12:30)	9 自由行動
10 自由行動	11 General English @ TAFE (9:15～12:30)	12 General English @ TAFE (9:15～12:30)	13 General English @ TAFE (9:15～12:30)	14 General English @ TAFE (9:15～12:30)	15 STUDENT ONE Elizabeth Streetチェックアウト後、専用車で空港へ ブリスベン空港発(9:20) 成田空港着(17:30)	16 事後教育 @ 文化学園大学 (10:00～17:00)

● 成果と課題

本年度の参加学生は 4 名であった。4 名とも 1 年生であったが、服装学部ファッションクリエイション学科 1 名、服装学部ファッション社会学科 1 名、造形学部建築・インテリア学科 2 名と、所属学科に偏りの少ない、多様性の高いメンバー構成での実施となった。

本研修は英語プログラムを軸とし、現地での体験を通してグローバルな対応力を身に付けることを目的としている。教員が引率しないため、想定外の状況に置かれた際には自分たちで対応する必要があることを学生にはオリエンテーションや事前研修で例年以上に繰り返し強調した。

自律的な行動を強調したことの効果は、学生の語学研修での学修態度として現れていた。研修先の TAFE では初日のテストの結果に基づき所属クラスが決定されるが、授業を受けた上で自分のレベルにあっていないと判断した学生 2 名が自らクラス変更を申し出たり、同じクラスの他の学生に会話のコツを質問したりと、積極的・主体的に研修に参加していた。

研修での経験を新年度以降の学修意欲向上や学びの動機付けとなるようプログラムを設計することは、AP 事業として実施していた頃からの梅春科目の特徴であり、本年度の研修はこのようなプログラム設計がこれまで以上にうまく機能していたと考えられる。

2022 年度のブリスベン研修では、スケジュールの確定や渡航許可の取得など準備段階で情報伝達に漏れやミスがあったこと、さらには事件・事故や病気・怪我以外の緊急対応をどのように行うかが課題として残った。

これを踏まえて 2023 年度は準備段階では、旅行会社と担当教員とのメールでの連絡を、学生にも共有するようにした。これによって進行状況が可視化され、スケジュールの確定等の準備のプロセスを学生自身が「自分事」として捉えることが可能となり、伝達漏れの可能性も減らすことができた。

緊急対応に関わる対応として TASKAL というアプリ型のサービスを導入し、リスクマネジメント研修では同サービスの担当者からの説明を行った。事故などに巻き込まれる学生は、幸運なことに今年度はいなかったが、J-TAS と TASKAL というタイプの異なるサービスを併用したことで緊急対応をより手厚くなったと考えられる。

所属学部学科：ファッションクリエイション学科１年

● 履修の目的・目標

今回この研修に参加した目的は、自分自身海外生活が初めてなので将来海外で生活する際や海外を拠点に働くとなった際に、海外の生活スタイルに慣れていないと今後苦労してしまうと思ったためこのプログラムに参加した。今の自分の英語力は現地でちゃんとコミュニケーションが取れるのか伝わるのかなど不安な点も沢山ある。また、新しい環境や文化に触れ、様々なトラブルの対応にも慣れておくべきだと考えている。その為、今回の研修で、どれだけ新たな発見があるのか、どのぐらい成長したのかが分かる良い学びを行いたい。

● 研修で最も印象にのこったことについて

クラスメイトとご飯に行ったりプールに行ったりしたことである。正直、この短い期間でクラスメイトと学校以外で遊べるとは思ってもいなかったため、とても良い経験になった。その中でも帰る前日にドライブに誘ってくれて今までのブリスベン生活を振り返るように沢山の場所に連れて行ってくれたことが特に印象に残っている。

遊んでいる中では、R と L、C と K、Thi の発音を教えてもらった。日本人はこの３つの発音がとても苦手で、今までこの発音をした時に伝わらないことがあったのがあったのはこの発音が違ったからだと気づかされた。例えば私は洋服を作っていると伝えたい場合、Clothes という単語を使うが、Close や Cloth と聞こえてしまうことが多かったため、今後発音に気を付けようと思った。また皆で動物園に行きコアラを抱っこしたりゴールドコーストに行ったりした。ゴールドコーストで見た海はとても綺麗で透き通っていて、ここでしか見ることが出来ない海を見ることが出来て良かった。また Eatstreet という週末限定のイベントでは日本では定期的に開催されるイベントは無いので新鮮だった。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

今回入国する際の不安が沢山あった。オーストラリアは検疫が世界の中でも厳しいと聞いていたため検疫のことしか頭になかった。しかし、到着してから epassport の発券機が丁度壊れてしまい機械では無く空港の方に直接手続きを行ってもらったのが予想外で、正直検疫よりも緊張した。また検疫では絶対にリストが必要だと実感しました。リストが有ると無いではかなりスピードが違う印象だった。私達より前の海外の方は恐らく全員リストが無く、かなり長引いていたり没収されていたりしたため、事前準備をしていて良かった。その為、一つではなく様々なトラブルを想定しておくこと、冷静に対処することが必要だと思

った。

さらに学校ではコミュニケーションの取り方を学んだ。クラスメイトから英語で話す時は感情をもっと表情や行動に出して話すと良いと教えて貰った。その言葉を聞いて、文法を気にしながら話すのではなくとにかく積極的に話し続けていくことが重要だと思った。

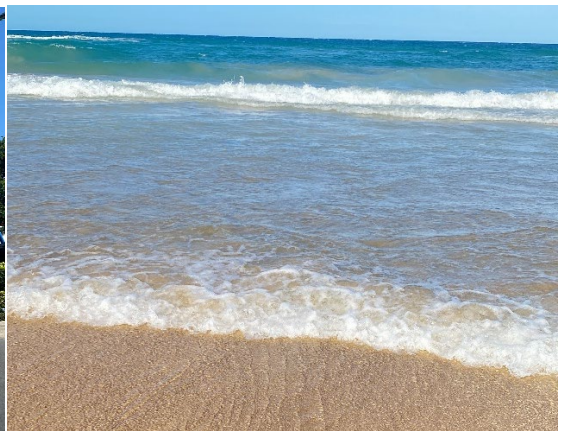
● 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修を通して学んだことや成長したことが沢山あった。私にとっての一番の変化といえば、積極的に意見を言えるようになったこと、自分の伝えたいことは動作や表情を加えられるようになったことだ。終盤の方では元々気になっていた洋服屋に入って店員さんにコンセプトを聞くことも出来るようになった。

たとえ言語の壁があったとしても、短いフレーズや単語に動作や表現を行うことで、効果的なコミュニケーションが可能であることを学んだ。これは、将来のプレゼンテーションやコミュニケーションにおいて活用できる重要なスキルになってくると思った。

また小さなことでも挑戦することが大事だとも感じた。成功するかしないかを心配するのではなく、新しいことに挑戦することで成長していくと実感した。

これらを今後の学校生活等において生かして実践していきたい。



所属学部学科：服装学部ファション社会学科　１年

● 履修の目的・目標

履修の目的は入学前から留学がしたいと志していたからである。海外の雰囲気や文化を直接体験することや、日本の常識外の場所で生活をすることで別の価値観を知ることができると考え、履修するに至った。また、自分自身が英語圏での生活を行うことで、英語を使わざるを得ない環境に身を置き、日常会話に支障がないレベルの英語力を身につけ、英語でのコミュニケーションをよりスムーズに行えるようにすることが履修の目標である。

● 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象にのこったことは、Tafe 校内と外での英語のスピードが全く違う点である。学校が始まってから、自分は意外と話せているし聞き取れているのではないか、と思っていた時期があった。しかし、校外に出てみると英語のスピードや内容のレベルが格段に変わるのだ。特に Student One でスタッフに質問をした時や、人混みの中、大音量の音楽の流れるバーでは特に強く感じた。聞き取る能力とその返答へのスピードがまだまだネイティブには劣るなと感じる。しかし決してそのレベルに達していないことを卑下する必要はないのだとクラスメイトの姿や教師の言葉で実感した。

さまざまな国にルーツを持つ人が集まる TAFE のクラスメイトたちはネイティブではない上、同じくらいのレベルの人たちが集められているが、年齢はバラバラであった。それでも彼らは入れ替わりの激しい中でも寛容に接してくれたことに非常に助けられた。

誰かと遊びに行く、といったことはできなかったが、多国籍な空間で学ぶということ自体が自身にとって非常に貴重な経験となった。

● 研修を通して気づいた事・学んだこと

先に挙げたように、TAFE 校内と外での英語のスピードが全く違う点であったり、聞き返した時にも全く話すスピードを変えてくれなかったりした時など、自分が外国人だからといって何かしら特別扱いはされないことや、今まで日本で学んできた英語がアメリカ訛りの英語だということを強く実感した。

また、週末（特に日曜）の閉店時刻の早さや店員が電話をしているなどの文化的な違いにも触れ、あまり他人を気にしすぎなくてもいいのだと気づいた。

学びとしては日本人の文法能力の高さである。クラスメイトが文法的な事象について質問する中、自分は知っていることだったり、思い出せば特につまずくことのない部分だった

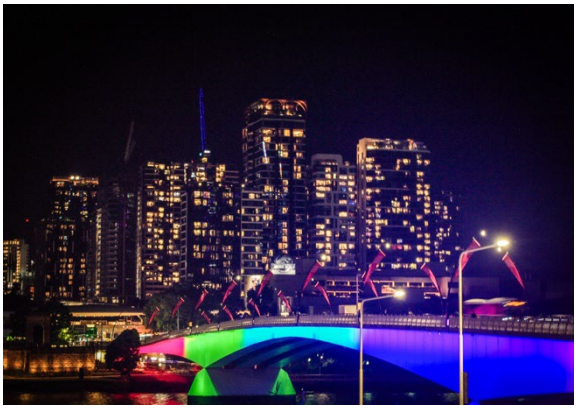
りということがあった。その点から、日本の英語教育に足りていないのは会話であり、特に発音の点は改善が強く必要だと思った。発音がおかしくとも、とにかく自信を持って話すことが大切だと知ることができた。

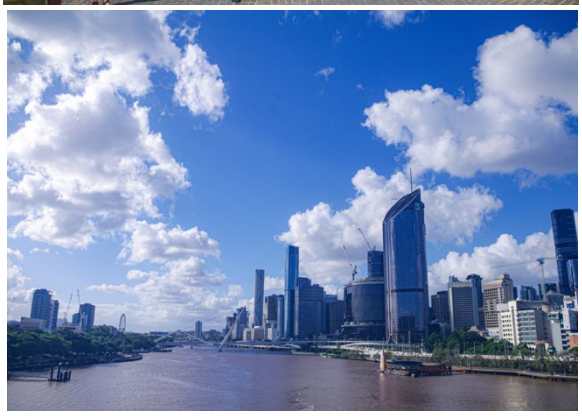
● 今後の学生生活に生かしたいこと

今後の学生生活だけではなく、今後の生活全般に生かしたいことだが、本研修で自身の英語力の度合いに関わらず自信を持って会話に挑む、わからないことを素直にわからないと聞くことの重要性を知ることができたため、日本での生活で英語を使う際には自信を持って会話していこうと思う。履修目的の「日常会話に支障がないレベルの英語力」にはまだ少しばかり及ばないと感じた。そのためには絶えず勉強を続ける他ならないのだろう。

研修に参加する前には、海外は文化や常識が違うためどうしようかと気負っていたが、実際に行ってみると結局は人が住んでいるため杞憂に過ぎなかった。海外では自身の一番のアイデンティティとして「日本人である」ということを強く実感したため、日本について自分でもある程度話せる必要があるなと感じる場面もあった。

今後海外に行くことも視野に入れて参加を決めた本研修で私は、外国人として海外へ行くことへの抵抗感が薄れ、日本でもよりオープンに過ごせるようになったと感じた。





所属学部学科：造形学部建築・インテリア学科　１年

● 履修の目的・目標

日本では得られないような新しい価値観のもと視野を広くし、自分自身の性格を見つめ直し、これからの人生の糧にすることを目的とする。英語を使わないと生活していけないような環境に身を置き、リスニングやスピーキングのスキル向上を目指して、日々積極的に行動していきたい。また、国際的な環境で学ぶことにより、自己啓発や自己実現にも繋げたい。学校やコミュニティでの交流を通じて友人などのつながりを作り、国際的な人脈を広げることも目標の一つだ。

● 研修で最も印象にのこったことについて

国が違うと建物や風景の雰囲気が違うことについて改めて感じた。今回研修で訪問したブリスベンは建物も道路も大きく広く、窮屈さを感じなかった。東京と同じようにたくさんのビルや建物でいっぱいだったが、どれひとつとして他の建物に劣らないようなデザインでした。ブリスベンと比べて、日本の建築は質素でシンプルなのが多く面白味が無いなと帰国後新宿の街を歩いたときに感じた。

建物に番地が書いてあるのが良く目についたが、かっこいいし今どこにいるのかがわかりやすいため日本にとりいれても良いと感じた。道路についても日本にあったら良いなと感じたことがあり、道路脇の街路樹が道路を覆いかぶさるようになっていて美しかった

●研修を通して気づいた事・学んだこと

価値観の違い、考え方やフレンドリーな態度、他人に対しての感じ方や見方がやはり違うのだなと感じた。語学学校の授業時クラスメートが積極的に発言していたので、思ったことはどんどん言うようにしていきたい。

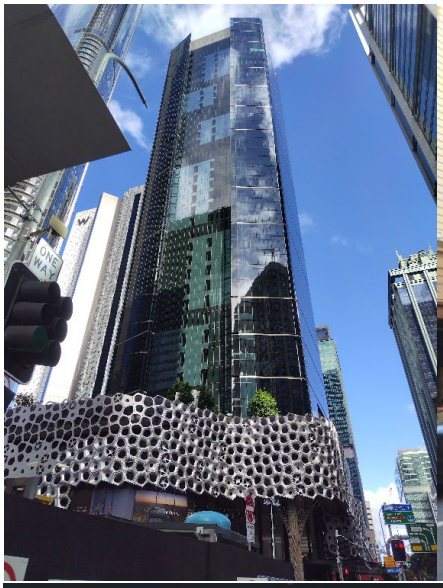
研修終盤に近付いた頃ひとりで散歩(カフェ巡り)をした。気になったところにふらっと立ち寄り、幸せな時間を過ごすことができた。カフェの店員さんはフレンドリーな方が多く「What your country?」「Japan」「日本人の友達がいるよ～/僕の妻が日本人だよ」などのちょっとした会話をすることができ、英語を聞き取れるようになったことと理解できるようになったことへの喜びを感じた。あと 1 か月あれば毎日通ってオーストラリアのフレンドを作れたりしたのかなと思ったが、1 か月前の自分の英語力だと聞き取れなかっただろと思った。研修前にはここまで成長できるとは考えていなかったため、成長を実感することができ、今回この研修に参加することができてよかったと感じた。

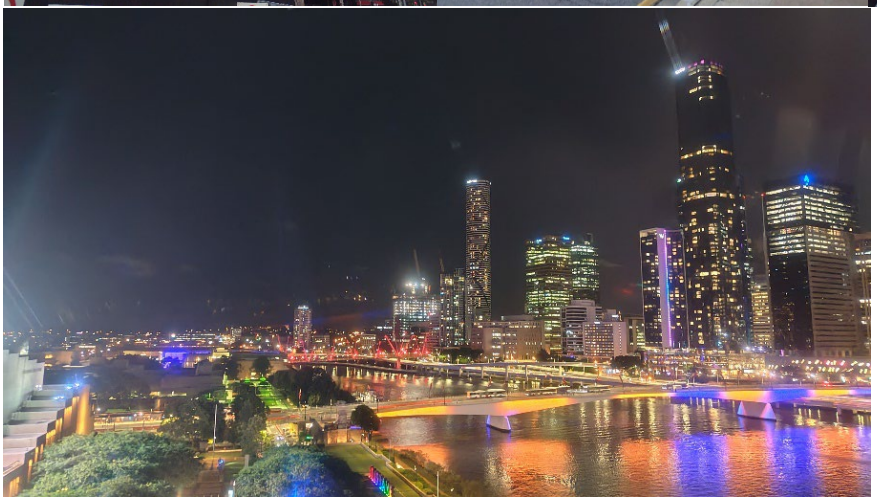
● 今後の学生生活に生かしたいこと

間違いや失敗を恐れないで積極的に行動し、ほんの少しの勇気をもとにこれからの学生生活に生かしていきたい。今回の経験によって、現地研修はただ日本で机に向かって英語の勉強をするよりも遥かに英語の吸収力が違うと実感した。

例えば、行きと帰りのスマホの使えない飛行機内での英語や、カフェなどのお店に行ったときのちょっとした会話でのコミュニケーションがとれたことが嬉しかった。こうした成功体験や経験があると次につながっていく。また、失敗したり全然うまくいかなかったとしても、何が良くなかったのか、次同じことをするときはどうすればいいかなどを調べたり考えたりしてメモしたりして記憶に残いていくことで、次の行動に生かしていきたい。実践して取り入れるのは重要だ。

今回の研修で英語に触れ、得た貴重な経験を無駄にしないために生活に英語を取り入れ、この感覚を忘れないうちに積極的に英語に触れ、感覚の継続と英語力の向上していきたい。





所属学部学科：造形学部建築・インテリア学科　１年

● 履修の目的・目標

履修の目的は２つある。１つ目は現地の学校で英語を学ぶことで英語を通じてたくさんの人とのコミュニケーションできるようになること。２つ目は日本にない景色を見ることで感性を磨き、自分にない考えを得ること。この２つの目標を達成し、一つ大人になった自分になっていたい。

● 研修で最も印象にのこったことについて

海外の人の時間のルーズさに驚いた。日本人は時間通りに出席をしなくてはならないという気持ちが強く、授業始まる 5 分前に着席している。しかし、他の国の人たちは余裕で遅刻して来る。先生も怒らない。授業中も当たり前のように退出する。また、授業中なのに人の出入りが激しかった。

はじめは慣れなかったが、オーストラリアで過ごしていくうちに日本の人は時間に追われて生活していることに気づき、オーストラリアの人のように時間に追われず、自分のペースで行動している姿ところが心の余裕があり、素敵であるなと感じた。自分を一番に大切にするスタンスがとても素敵だと感じた。

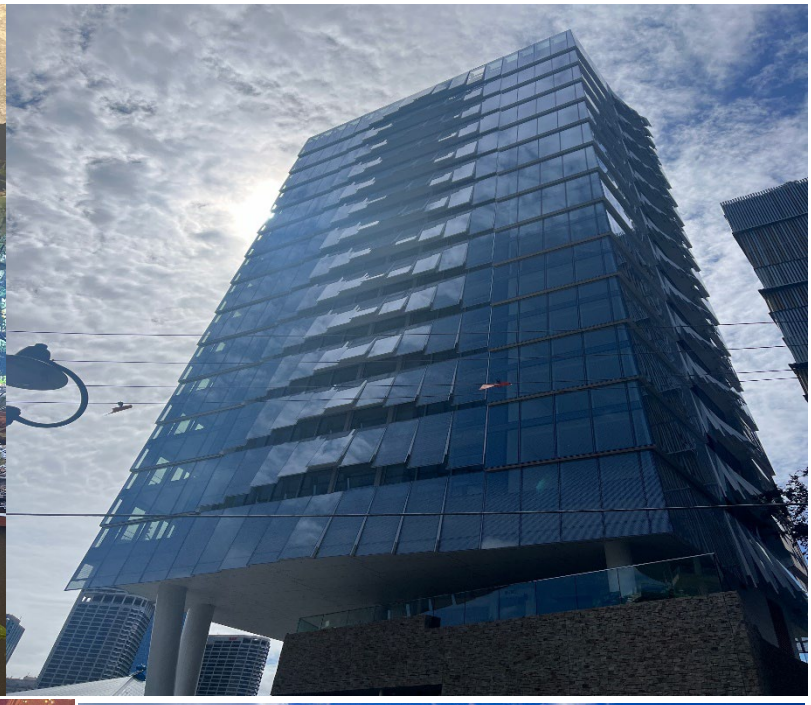
● 研修を通して気づいた事・学んだこと

授業の内容や先生やクラスメイトが話すことは英語で聞き取ることができるのに、英語を話すことが出来ず苦労した。この研修期間に英語でコミュニケーションを取れるようになる目標を達成するために英語を流暢に話すクラスメイトに「どうしたらあなたみたいに英語上手を話せるようになるのか」と質問をした。その質問に対して彼は恐れずに話すことが大切だと教えてくれた。それを聞いて私は確かに英語を話すとき文法を意識しすぎて、話せなくなっていることに気づき、伝わればいいという気持ちで英語を話すことが大切なのだと気づいた。

オーストラリアのビルについてだ。日本のビルはただの立方体の建物がほとんどでひとつひとつの建物に違いはあまりないが、オーストラリアのビルは円柱や日除をうまく取り付け、デザイン性に優れており、外観に違いを感じるビルが多かった。特に日除をうまく取り付けたビルは生活面でも直射日光に当たらず生活でき、外観のデザインとしても利用できるという 2 つの利点を兼ね備えたビルであった。このような日除をうまく利用してデザインとして成り立たせる考え方を学ぶことができた。

● 今後の学生生活に生かしたいこと

梅春ブリスベン研修を通して、日本人と海外の人の考え方の違いを学び、いい刺激となった。日本人はその場の空気を読み授業中に質問などできないが、語学学校の生徒たちは授業中にわからなくなった度に質問をしていた。日本人は思っているより周りの目を気にしていることを知り、自ら人とコミュニケーションする機会を閉ざしているのだと感じた。英語を話す時も同じだ。伝わらなかったらどうしようと考えるのではなく伝わればいいや

という気持ちを持ちとりあえず発言していくことが speaking 能力を高める方法だと学んだ。この学びから海外の人のように周りの目や失敗を恐れずに挑戦していける人になっていきたいと感じた。

　また、建築物の面では日本にはない建物のデザイン性を学んだ。この学んだデザイン性を参考に課題などに取り組ん　でいきたいと感じた。